



（写真）Shutterstock “ボリバル建て、ドル建てで2026年1～6月の物価の動向を確認”

26年前期ベネズエラの物価

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

米 国の制裁緩和により一定の経済回復の兆しが見えるベネズエラだが、2026年に入ってから依然として物価上昇が続いている。

2026年1～6月の累積インフレ率は約129.9%に達し、前年同期の約105.2%を上回った。一方、ドル換算した場合、物価の見え方は違ってくる。

本稿では、2026年前期のボリバル建て物価の動向を確認した上で、公定レートと並行レートを用いてドル建て物価の変化を考察する。

前期の累積インフレ率は約129.9%

次ページのグラフは、ベネズエラ中央銀行が公表している2025年1月～26年6月までの先月比インフレ率（ボリバル建）の推移を示したグラフ。

2026年1月のインフレ率は前月比32.6%増となり、25年1月以降最も高い水準を記録した。

その後は、2月：14.6%、3月：13.1%、4月：10.6%、5月：6.3%と4カ月連続で低下した。特に5月は、2025年1月以降で最も低い伸びとなった。しかし、6月には13.8%へ再び上昇している。

2026年1～6月の累積インフレ率は約129.9%。

つまり、平均すれば2025年末に100ボリバルで購入できた財・サービスの価格が6カ月後には約230ボリバルに上昇した計算になる。

2025年1～6月の累積インフレ率は約105.2%であったため、2026年前期の物価上昇は前年同期を上回っている。

インフレ率は1月をピークにおおむね低下傾向にあるものの、半年間を通じた物価上昇の規模は前年より大きい。

レストラン・ホテル、医療の上昇が顕著

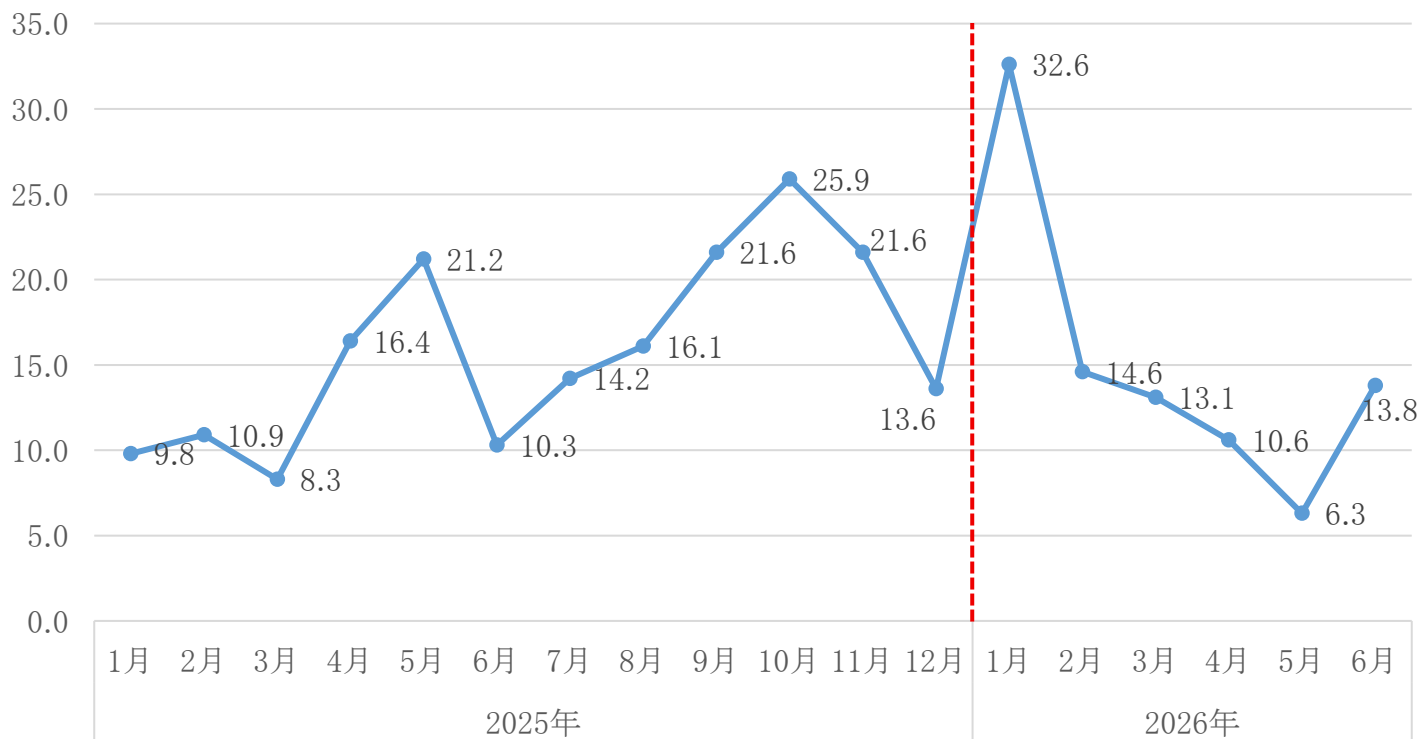
次ページの表は項目別インフレ率をまとめたもの。

2026年前期の累積インフレ率が最も高かったのは「レストラン・ホテル」の約141.7%。続いて「医療」が約135.8%、「娯楽・文化」が約134.4%、「その他財・サービス」が約133.6%。生活に不可欠な「食料・飲料」も約131%と比較的高い物価上昇となっている。

一方、上昇率が比較的低かったのは「家庭内サービス」の約79.1%と「不動産賃料」の約88.9%。ただし、他の項目と比べて低いというだけで、半年間で8割前後上昇していることに変わりはない。

グラフ：ベネズエラの月別インフレ率(2025年1月～26年6月)

(単位：%)



(出所) ベネズエラ中央銀行

表：ベネズエラの項目別インフレ率推移（2025年1月～26年6月）

	全体平均	食品・飲料	酒類・タバコ	衣類・皮革製品	不動産賃料	家庭内サービス (通信除)	家財	
2025年	1月	9.8	10.8	10.0	10.3	6.0	4.0	9.2
	2月	10.9	10.2	11.5	10.4	7.1	4.2	10.0
	3月	8.3	8.8	10.0	7.9	4.8	7.8	7.4
	4月	16.4	18.4	14.8	14.1	12.3	8.0	14.3
	5月	21.2	23.5	20.8	21.8	20.3	11.9	22.2
	6月	10.3	9.7	12.4	9.5	7.5	5.4	9.3
	7月	14.2	15.1	13.4	14.6	11.1	18.4	13.1
	8月	16.1	17.3	15.5	14.0	15.8	9.1	15.7
	9月	21.6	23.3	22.8	20.0	18.3	10.4	18.9
	10月	25.9	27.9	23.4	20.7	22.9	12.8	25.0
	11月	21.6	22.7	24.1	21.7	20.9	17.6	22.8
	12月	13.6	13.4	12.2	13.7	13.0	8.4	13.3
2026年	1月	32.6	36.6	30.0	31.3	21.3	15.5	25.1
	2月	14.6	12.0	15.3	16.2	12.0	6.4	15.3
	3月	13.1	12.6	13.0	13.1	10.7	15.0	13.3
	4月	10.6	11.5	9.1	9.7	8.1	6.1	9.1
	5月	6.3	6.3	5.6	7.0	4.9	3.9	6.8
	6月	13.8	13.1	13.8	13.3	10.9	14.9	14.0
1～6月累計	129.8	131.0	121.9	129.6	88.9	79.1	116.9	

	医療	交通	通信	娯楽・文化	教育サービス	レストラン・ホテル	その他財・サービス	
2025年	1月	8.4	7.0	2.5	10.9	11.9	10.4	9.6
	2月	11.8	10.6	22.2	11.9	12.7	12.4	10.5
	3月	9.9	6.3	6.5	7.6	7.1	9.6	9.4
	4月	13.5	16.0	17.0	15.1	18.4	16.7	13.2
	5月	20.3	16.6	7.4	20.0	16.0	22.2	22.6
	6月	12.6	11.7	15.2	7.8	12.4	10.0	10.6
	7月	13.6	8.6	12.2	14.5	19.6	16.3	14.2
	8月	16.3	14.2	17.4	13.5	16.9	14.3	16.6
	9月	20.0	15.7	21.5	21.4	34.2	19.7	18.6
	10月	24.5	26.8	20.6	23.6	27.7	24.9	25.6
	11月	18.3	19.8	19.0	19.5	18.5	19.5	23.3
	12月	14.1	13.6	15.5	16.0	13.3	14.2	13.0
2026年	1月	29.6	24.5	24.3	35.3	28.2	34.1	30.4
	2月	22.0	13.4	22.3	13.6	16.1	19.1	19.0
	3月	13.2	15.6	12.9	14.5	12.7	13.3	12.4
	4月	8.5	11.5	9.6	8.7	8.9	9.6	10.8
	5月	5.8	5.3	6.5	7.3	6.6	7.1	6.2
	6月	14.8	16.2	13.6	14.2	15.2	13.8	13.8
1～6月累計	135.8	122.7	127.4	134.4	124.3	141.7	133.6	

（出所）ベネズエラ中央銀行

公定レート換算では6カ月で9.3%上昇

ボリバル建ての物価指数を公定為替レートでドル換算すると、ドル建て物価指数は2025年12月の706から2026年6月には772となり、半年間で約9.3%上昇している。

同期間にボリバル建て物価は約129.9%上昇したが、公定為替レートも301.0ボリバル／ドルから632.6ボリバル／ドルへ、約110.2%上昇した。このため、ボリバル建て物価上昇の大部分が公定レートの下落によって相殺され、ドル換算した物価の上昇は比較的小さくなった。

この結果を見る限り、公定レートを基準としたドル建て物価は月毎で上下を伴いながらも、26年前期を通じて比較的安定していたと言える。

一方、並行レート（暗号通貨を介した政府管理外のレート）で換算したドル建て物価指数は、2025年12月の345から2026年6月には634へ上昇した。半年間の上昇率は約83.8%になる。

この数字だけを見ると、26年前期の公定レートは比較的安定していたが、並行レートではボリバル安が進行したと結論付けられる。ただし、25年12月のベネズエラは特殊な環境にあり、同月の並行レートを基準に考えると実態と乖離する印象がある。

表：ドル建てで見たベネズエラの物価

年	月	公定レート				並行レート			
		Bs/USD	為替 増減率	ドル建て 物価 指数	ドル建て 物価 増減率	Bs/USD	為替 増減率	ドル建て 物価 指数	ドル建て 物価 増減率
2024年	12月	52.0	－	711	－	67.1	－	550	－
2025年	1月	58.4	12.3	694	△ 2.3	68.3	1.9	593	7.7
	2月	64.4	10.3	698	0.5	79.4	16.1	566	△ 4.5
	3月	69.7	8.2	699	0.1	101.6	28.0	479	△ 15.4
	4月	87.5	25.5	648	△ 7.2	108.5	6.8	522	9.0
	5月	97.2	11.1	707	9.0	142.4	31.2	482	△ 7.6
	6月	108.1	11.2	701	△ 0.8	141.7	−0.5	535	10.9
	7月	125.3	15.9	691	△ 1.5	165.4	16.7	524	△ 2.1
	8月	148.3	18.4	678	△ 1.9	202.9	22.7	495	△ 5.4
	9月	179.2	20.9	682	0.6	293.5	44.7	416	△ 16.0
	10月	223.7	24.8	688	0.9	302.2	3.0	509	22.3
	11月	247.0	10.4	757	10.1	368.5	21.9	507	△ 0.3
	12月	301.0	21.9	706	△ 6.8	615.1	66.9	345	△ 32.0
2026年	1月	369.8	22.9	761	7.9	511.7	−16.8	550	59.3
	2月	419.5	13.4	769	1.0	605.1	18.2	533	△ 3.1
	3月	473.3	12.8	771	0.2	681.2	12.6	536	0.5
	4月	488.9	3.3	825	7.0	630.7	−7.4	640	19.4
	5月	553.7	13.3	775	△ 6.1	734.7	16.5	584	△ 8.7
	6月	632.6	14.2	772	△ 0.4	770.3	4.8	634	8.5

（出所）ベネズエラ中央銀行のデータより弊社作成

2025年12月当時、トランプ政権はベネズエラの周辺海域に複数の軍艦を配置し、ベネズエラ産原油を積んだタンカーの移動を妨害した。

タンカーの動きが妨害されたことで、原油輸出は停止。ベネズエラ国内では今後の外貨流入に強い不安が生じ、並行レートにパニック的な動きが発生。

2025年11月末時点の並行レートは368.5ボリバル／ドルだったが、12月末には先月比6.9%増の615.1ボリバル／ドルまで上昇した。その結果、25年12月末の並行レートで換算した物価が異常に安くなってしまっている。

しかし、26年1月に暫定政権が発足し、米国はベネズエラ原油の輸出妨害を停止。米国管理下での原油輸出が再開した。

これにより将来的な外貨収入の不安感が緩和。

2026年1月末時点の並行レートは先月比16.8%減の約511.7ボリバル／ドルになった。

このような背景から、2025年12月末時点の並行レート（615.1ボリバル／ドル）は、過度にボリバル安で評価され、他の月と比べてドル建て物価が低くなっている。

2025年10月比では12～25%上昇

12月の特殊要因を排除してドル建てのインフレ率を考えるために2025年10月末時点の公定レートと並行レートを比べてみたい。

その場合、**公定レート**の物価指数は25年10月の688から26年6月に772となり、増加率は**12.2%増**だった。

一方、**並行レート**の物価指数は25年10月の509から26年6月に634となり、増加率は**24.5%増**。こちらの方が実態に近いドル建ての物価上昇と思われる。

なお、**公定レート**で換算した方が、**並行レート**で換算するよりも**インフレ率が低かった**ということは、**公定レートの方がボリバル安の進行が激しかった**ことを意味する。つまり、**両レートの差が縮小した**ことになる。

公定レートと並行レートの乖離は経済にマイナスの影響を与えるため、両者の差が縮小したことは評価できることだろう。

物価上昇は鈍化傾向も楽観視できず

2026年の物価動向を総じていうと、ボリバル建ての物価は1月をピークに収束傾向にあるものの足元では再び上昇しており、楽観視はできない。

駐在員やドルにアクセスできる人にとって重要になる外貨建ての物価は、比較的安定しているが、それでも公定レートでは過去8カ月で12.2%増、並行レートは同24.5%増と上昇している。

中央銀行が継続的に外貨市場にドルを供給し、為替レートを安定させることが出来れば、物価上昇も収束方向に進むことだろう。